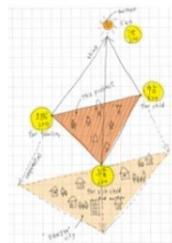


# 医療 × 保育

地域の病児・病後児も預かり可能な  
病院運営型保育園

## 設計趣旨

病児・病後児保育ルームとは、子どもが病気になったとき、働くお母さんに代わって見てくれる施設です。病気の子どもはもちろんですが、それでも働かなければならないお母さんも辛い気持ちになります。しかし、お母さん。あなたは子どもにとっての太陽です。私たちはこの建築に3つの【JYO】を吹き込み、働くお母さんを応援することにしました。そして輝きを増したお母さん達により、地域が明るくなることを願っています。

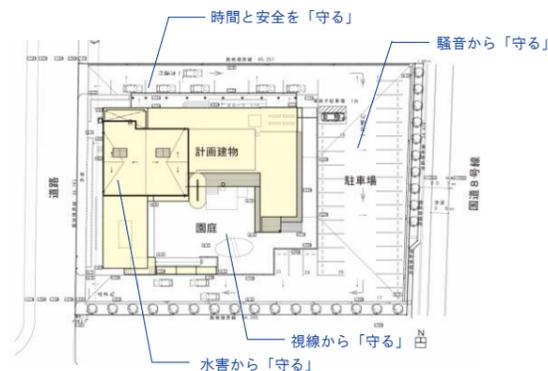


## 設計手法

### 1 「城」の現代的解釈

—不変の敷地特性×建物のミッション—

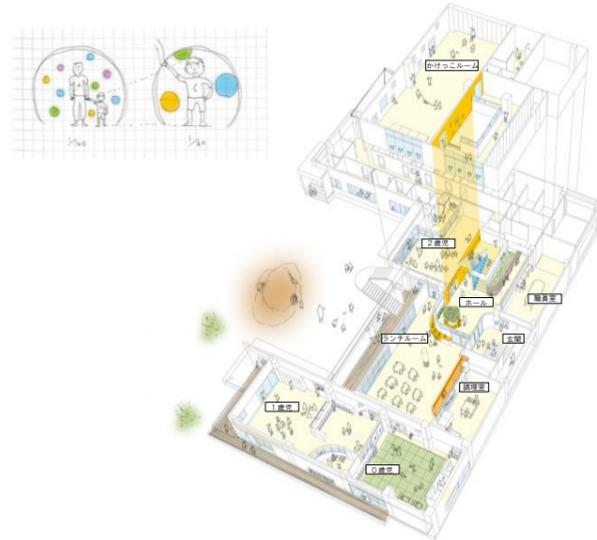
計画敷地付近にはかつて水運を生かして三条城が存在した。人々を守り、発展させた城は、現代なおも利便性が良いこの地で、子育て家族のために再生する。お迎えの朝や夕方のお母さんの忙しい時間、昼間の子どもたちの居場所、また水害時には地域の子どもが避難できる場所と、日常から非日常まで様々なシーンを想定して「守る」ことに配慮した設計とした。この建物は、子育て家族の堅固な城として地域のランドマークとなる。



### 2 「帖」1帖スケール

—こどもに寄り添う空間単位—

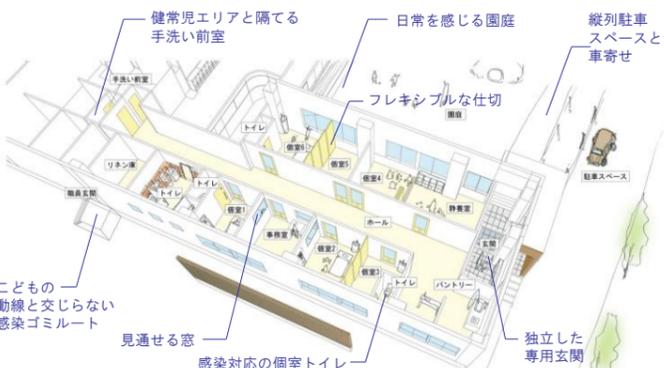
こどもの身体感覚や動きに寄り添い、畳1枚分=1帖の空間単位に、刺激としての要素を散りばめた。子ども達が過ごす居場所づくりは大人のスケール感と大きく違う。特に未満児のパーソナル空間は極端に小さく、大人にとって賑やかすぎる空間が、実は子どもにとって丁度良い密度となる。発育期に重要なコミュニケーションや一人遊びなど、居場所にバリエーションを持たせることで、未満児の自発的な選択が可能となる。



### 3 「情」Kindest Garden

—kind<kinder<kindest 最上級のやさしさへ—

優しさKindは子ども達を受け入れてKind Garden→Kinder Gardenとなり、今までは受け入れ場所がなかった病児・病後児の環境を整えることで、最も優しさを求められるKindest Gardenとなった。病気の子ども達の気持ちを考えて、「安全」と「安心」の空間づくりに挑戦した。



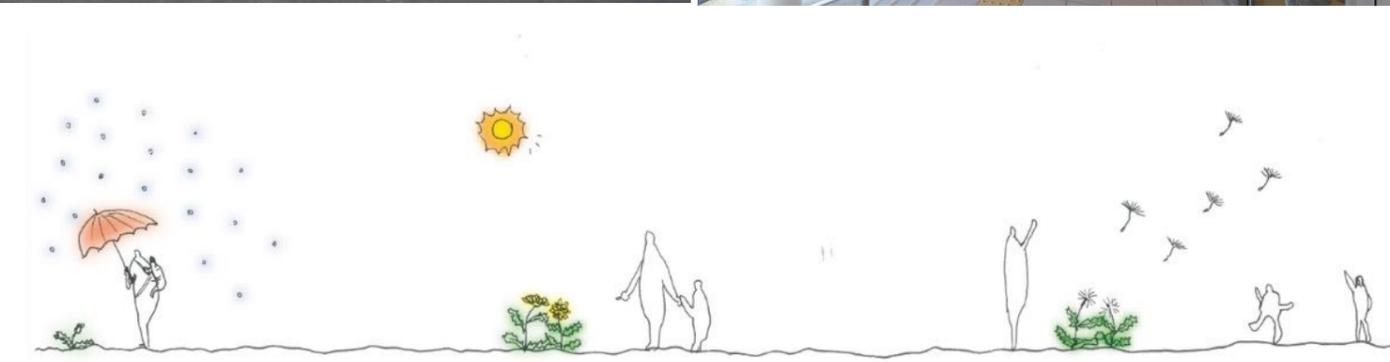
南側の園庭は外部の視線から守れるように配置した。保育室は園庭に向かって開き、守られた一体的な空間となっている。



国道沿いの東面に駐車場を配置し、建物との距離を緩和した。東面の手摺はRC壁も織り交せて、音と視線から守るプランとした。



お迎えはポーチ沿いに縦列駐車とし、傘を使わず時間、天候、交通事故から守る全天候型アプローチ



## 新潟県済生会三条病院附属保育園たんぼぼ / 病児・病後児保育ルームなのはな



1歳児保育室+トイレ

見通しが良く安心な病児保育室

保育室にいる先生からも見通せるトイレ

1帖スケールをちりばめたホール

覗き窓と狭さが楽しいあなぐら

明るい病児保育エリア廊下



よりみちギャラリー

ライブキッチン

凹みポケット

さまざまな1帖スケールを内包するランチルーム。たんぼぼの綿毛をイメージした照明はふわふわと飛び立ち、保育室の入口に舞い降りて芽を出します。